



食器として使用される白河焼。小皿、茶わん、急須などが作られた

# 100年を超え 白河焼復活

江戸時代の白河藩主・松平定信とゆかりがある焼き物がよみがえった。白河市の老舗和菓子店「白河菓匠大黒屋」が13日、同市の南湖公園内でオープンするカフェ「南湖茶寮」では、生産が一度途絶えた焼き物「白河焼」が食器として使われる。東京電力福島第1原発事故で浪江町から同市に避難した大堀相馬焼の「かみりや寮」の13代目、山田慎一さん53が「多くの人に知ってもらいたい」との思いで再現した。

## 浪江から避難 山田さん再現

黒屋社長の古川雅裕さん(82)だ。5年ほど前、市内の小学校で体験授業の講師として招かれた際に2人は出会い、意気投合した。



「古川さんから焼き物の土に詳しい知人を紹介してもらった。市内で作られる焼き物の始まりは1794(寛政6)年以降とされる。明治初期には生産が途絶えた」とみられ、現在は「白河焼」と称している。

山田さんは2011年6月、避難先の市内に新たな拠点を構え、白河焼を知った。しかし市民は白河焼を認識していなかった。二元々あった産業なのに誰も知らないのはもったいない。地域の方とつながるものを作りた」と意欲を燃やした。

そこで一役買ったのが大黒屋社長の古川雅裕さん(82)だ。5年ほど前、市内の小学校で体験授業の講師として招かれた際に2人は出会い、意気投合した。

古川さんから焼き物の土に詳しい知人を紹介してもらった。市内で作られる焼き物の始まりは1794(寛政6)年以降とされる。明治初期には生産が途絶えた」とみられ、現在は「白河焼」と称している。

山田さんは2011年6月、避難先の市内に新たな拠点を構え、白河焼を知った。しかし市民は白河焼を認識していなかった。二元々あった産業なのに誰も知らないのはもったいない。地域の方とつながるものを作りた」と意欲を燃やした。

## 南湖公園カフェで使用



白河焼を再現させた山田さんと協力した古川さん。白河焼はカフェの食器として使用される。

図っている。177年続く老舗の大黒屋は代々の時代に合った場所で販売してきた。古川さんは「南湖公園は身分の差に関係なく誰もが楽しめる『土民共楽』の理念のもとで造られた。多くの人が集い、応援できるカフェを作りたかった」と語る。定信が築造した公園で、再び白河焼に白羽の矢が立った。

淡い灰色の茶わんは、しつくりと手になじむ。山田さんは「白河焼を作ったおかげで古川さんと出会い、器を使ってもらうことになった」と笑みを浮かべる。新たな拠点での出会いが白河の伝統を復活させた。白河焼は長い時を超え、新たな白河の名産品として再出発する。(小山璃子)

▲4月7日 福島民友新聞掲載

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。(330字程度)

いつ、どこで、だれが、なにを、どうやって、なんのために(5W1H)

いつ? \_\_\_\_\_

どこで? \_\_\_\_\_

だれが? \_\_\_\_\_

なにを? \_\_\_\_\_

どうやって? \_\_\_\_\_

どのように? \_\_\_\_\_

どうして? \_\_\_\_\_

なんのために? \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

白河焼が復活したのはどんなことやどんな思いがあったからでしょうか。県内や国内には、どんな焼き物があるかな?

